

恒例の芋煮会の月になりました。この日の最低気温は12月の最低を更新し、名古屋では初霜を記録しましたが、空は雲一つない快晴で時間とともに気温が上昇しました。風も弱く穏やかな気候の中、大勢で焚き火を囲むにぎやかな芋煮会となりました。

里山の家での持ち込み観察項目：交尾中のクロスジフユエダシャク、ひっつき虫アートの絵はがき

開始時刻には、集まった参加者は軽く50人を超えていました。大量の資機材はリヤカーには乗り切らず、一部の道具や材料は手で持つことにして、重くなった車体がバランスを崩さないように注意しながら、子どもたちも手伝って出発しました。中道を移動中にツバキの花、イロハモミジの紅葉などを見ました。



集合風景



ツバキ



モミジの紅葉

いつもの場所に到着して道具類をリヤカーから降ろしました。キャンプに馴れた男性の参加者を中心に、かまどとバーベキューコンロとキッチンのレイアウトを決め、それぞれの準備に取りかかりました。子どもたちには薪集めの指示が出ました。藪に入って薪をたくさん集めて来る子もいました。かまどとバーベキューコンロはサイズに合わせて穴を掘り、それぞれのセッティングが済むと火を起こして薪を燃やしました。



かまどの火入れ



コンロのセッティング



集められた薪

その間に一部の参加者は隣のトウチク林に入り、パン生地を巻き付けて焼くための竹を伐り出しました。太さと長さをそろえて20本ほど用意されました。火の十分起きたかまどには大鍋が設置され、水が張られました。持ち寄った食材はテーブル上に並べて鍋の湯が沸くのを待ちました。



パン用の竹を伐る



かまどに置かれた鍋



食材

竹パンづくりは毎回子どもたちに人気です。前日から仕込まれたパン生地を細長く伸ばして伐った竹に巻き付けます。きしめんのように平らに伸ばすと良いとのアドバイスがありました。大勢でコンロを囲み、パンを焼きました。みんな辛抱強く中まで火が通るまでじっくり焼いて、おいしいパンが出来上がりました。



竹パンづくり



竹パン焼き



焼けたパン

焼けたパンには手作りのローゼルジャムをつけて食べました。また、焼けて柔らかくなったマシュマロを、チョコレートに乗せたクラッカーで受けて食べるという方法が紹介されると、子どもたちはこぞってチョコとクラッカーを手にしていました。パンとマシュマロを焼き終えたコンロには、サツマイモが投入されました。環境に配慮してアルミ箔を使わないこだわりの焼き方です。その頃には芋煮も完成し、参加者はそれぞれ持参したお椀に芋煮をよそってブルーシートの上で食べました。早く食べ終わってお代わりする子どもも続きました。そつするうちにコンロでは焼き芋が非常にうまく焼けていて、食べた参加者に大好評でした。



ローゼルのジャム



マシュマロにチョコとクラッカーを合わせる



サツマイモを投入



出来上がった芋煮



食事風景



うまく焼けました

持参した天然の松脂を熱して琥珀を作った参加者がいました。松脂の缶に入った缶の底を熱すると溶けて透明になりました。子どもが見つけた甲虫はセンチコガネで、センチコガネが好きな子どもが体色を確認していました。また、高校生がトウチク林の奥で朽ち木の中で越冬中のコガタスズメバチの女王バチを見つけました。



松脂からできた琥珀



センチコガネ



コガタスズメバチの越冬女王バチ

女性の参加者が植物のつるなどで作ったリースが紹介されました。センリョウの赤い実がアクセントになっていました。終了時刻となり平和公園自然観察会の代表から締め挨拶がありました。オリンピック招致への反対から始まったこの自然観察の成り立ちが紹介され、この森の豊かな自然がいつまでも守られることを願いながら今後も続けていくとの決意表明と、継続的な参加の呼びかけがありました。帰りも往路と同様、重いリヤカーを協力して引きながら中道を里山の家まで戻りました。過去最大の参加数との声もあがり、ケガや事故は各自の責任でと確認をして始まった今年の芋煮会も、みんなで協力して無事に終わることができました。



手作りのリース



終わりのあいさつ



帰り道のリヤカー

芋煮会での活動項目：薪集め、落ち葉集め、竹バンの竹伐り、大鍋の芋煮づくり、焼き芋づくり、パン焼き、マシュマロ焼き、松脂の琥珀づくり

平和公園での観察項目(観察順)：センダン、ナンテン、ツバキ、モミジの紅葉、キタキチョウ、コガタスズメバチの越冬女王バチ、アケビコノハ、センチコガネ、カブトムシの幼虫(♂)